

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	統合分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	総合看護技術	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次	学期及び曜時限	後期	教室名	各教室
担 当 教 員	岡田香代子	実務経験と その関連資格	総合病院の消化器外科病棟・外来、医院(有床)で看護師として勤務		
《授業科目における学習内容》					
<p>これまで学んだ基本的な看護技術の知識・技術をシミュレーション学習や事例を通して、対象のフィジカルアセスメントを実施し、対象に必要な看護援助を考え、主体的に学ぶ。卒業時到達目標に向け技術練習を行い、臨床看護の場で活用していくことができるように、状況に応じての援助方法を学ぶ。</p>					
《成績評価の方法と基準》					
<p>授業参加状況、演習への取り組み、まとめ試験で総合的に評価する。</p>					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
<p>①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、臨床看護総論、呼吸器、循環器、血液・造血、消火器、内分泌代謝、脳神経、腎・泌尿器、女性生殖器、運動器、アレルギー・膠原病・感染症、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯科・口腔、人体の機能と構造、疾病の成り立ちと回復、臨床外科総論、各論、看護技術がみえる1・2、臨床看護、機能障害からみる看護過程1・2・3 中央法規</p>					
《授業外における学習方法》					
<p>1. 授業を理解するために、既習科目を復習しながら事前・事後の課題に取り組むこと。 2. 演習では、手順や留意点、イメージトレーニングを行い、主体的に演習に臨む。既習の看護技術の講義内容をよく復習し、ワークシート、WEB教材や看護技術のサブテキストを活用して、毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進める。</p>					
《履修に当たっての留意点》					
<p>評価は、各まとめ試験ですが、すべて合格していないと単位認定の対象になりません。事前事後課題は、提出期限までに提出してください。</p>					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	シミュレーション学習の進め方、学習内容を理解し、主体的に学ぶ。	AV機器、 各教科書、 看護がみえる1・2	指定した教科書を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	総合看護技術の目的と方法の説明。シミュレーション学習の進め方、学習内容、事例の提示		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者のシミュレータを活用して、フィジカルアセスメントができる。	シュミレータ、 聴診器、 各教科書、 看護がみえる1・2	事前学習：提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
		各コマにおける授業予定	事例展開、シュミレータを活用したフィジカルアセスメント、グループワーク		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者の状態に応じた看護援助が考えられる。	シュミレータ、 聴診器、 各教科書、 看護がみえる1・2	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
		各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助の実施		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者に対して、状態に応じた看護援助が考えられる。	シュミレータ、 聴診器、 各教科書、 看護がみえる1・2	事後学習：事例の看護援助の振り返りをレポート提出する。
		各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助の実施、振り返り、まとめ		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環機能障害のある患者のシュミレータを活用して、フィジカルアセスメントができる。	シュミレータ、 聴診器、 各教科書、 看護がみえる1・2	事前学習：提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
		各コマにおける授業予定	事例展開、シュミレータを活用したフィジカルアセスメント、グループワーク		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 循環機能障害のある患者に対して、状態に応じた看護援助が考えられる。	シュミレータ、聴診器、各教科書、看護がみえる1・2	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
	各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助の実施		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 循環機能障害のある患者に対して、状態に応じた看護援助が考えられる。	シュミレータ、聴診器、各教科書、看護がみえる1・2	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
	各コマにおける授業予定	対象に必要な看護援助の実施		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 循環機能障害のある患者に対して、状態に応じた看護援助が考えられる。	教科書、看護がみえる1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	事後学習：事例の看護援助の振り返りをレポート提出する。
	各コマにおける授業予定	対象に必要な看護援助の実施、振り返り、まとめ		
第9回	講義 形式	授業を通じての到達目標 脳血管疾患患者のシュミレータを活用して、フィジカルアセスメントができる。	教科書、看護がみえる1・2、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	事前学習：提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
	各コマにおける授業予定	事例展開、シュミレータを活用したフィジカルアセスメント、グループワーク		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 脳血管疾患患者の状態に応じた看護援助が考えられる。	教科書、看護がみえる1・3、機能障害からみる臨床看護技術、レポート	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む
	各コマにおける授業予定	状態に応じた看護援助の実施		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 脳血管疾患患者の状態に応じた看護援助が考えられる。	教科書、看護がみえる1・2、臨床看護技術、レポート	事後学習：事例の看護援助の振り返りをレポート提出する。
	各コマにおける授業予定	対象に必要な看護援助の実施、振り返り、まとめ		
第12回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標 輸液ポンプの操作、点滴静脈内注射の実施を根拠に基づき安全に実施できる。	教科書、看護がみえる1・2、臨床看護技術、レポート	事前課題：教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題：ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
	各コマにおける授業予定	輸液ポンプ、点滴静脈内注射の実施		
第13回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標 12誘導心電図の測定、包帯法の実施を根拠に基づき実施できる。	教科書、看護がみえる1・2、臨床看護技術、レポート	事前課題：教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題：ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
	各コマにおける授業予定	12誘導心電図の測定、包帯法の看護技術		
第14回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標 口腔・鼻腔・気管内吸引、酸素吸入の実施を根拠に基づき安全・安楽に実施できる。	吸引用シュミレータ、吸引器、酸素吸引、教科書、看護がみえる1・2、臨床看護技術	事前課題：教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題：ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
	各コマにおける授業予定	口腔・鼻腔・気管内吸引、酸素吸入の看護技術		
第15回	演習 実習形式	授業を通じての到達目標 静脈血の採血の実施を安全・安楽に実施できる。	採血・静脈注射シュミレータ、教科書、看護がみえる1・2、臨床看護技術	事前課題：教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題：ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
	各コマにおける授業予定	真空管採血を含む採血部位の確認と無菌操作による静脈血の採血		